

# 2014年5月期（第28期） 決算報告

2014年6月30日  
株式会社ウェザーニューズ



71億人の情報交信台

2012年～  
第四成長期：革新性

1986～1995年  
第一成長期：  
市場の成長性

1996～2003年  
第二成長期：  
ビジネスモデル  
の多様性

2004～2011年  
第三成長期：健全性

1986年創業

## ■第四成長期の期間

2012年6月(第27期)～2022年5月(第36期)

## ■経営上のテーマ

革新性

## ■経営上の重点項目

- 1: 航海気象における1万隻へのOSRサービス展開
- 2: 空と陸の交通気象のグローバル展開
- 3: ウェザーリポーターネットワークのグローバル展開



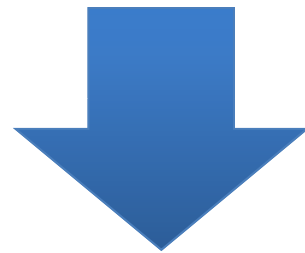
# 28期通期レビュー：連結業績

BtoB:OSRの顧客拡大に加え、円安の効果もあり交通気象で増収  
BtoS:スマートフォンへの移行により昨年比減収となったが  
減少傾向は鈍化

(百万円)

	第27期 (12.06~13.05)	第28期 (13.06~14.05)	増減
<b>売上高</b>			
(B to B 法人向け市場)	13,007 (6,572)	13,306 (7,228)	299 (656)
(B to S 個人向け市場)	(6,434)	(6,077)	(▲357)
<b>営業利益</b>	2,696	3,268	572
<b>経常利益</b>	2,760	3,293	533
<b>純利益</b>	1,724	1,873	149

当社の経営理念  
高貢献、高収益、高分配



期末配当35円、  
年間配当60円に増配

## BtoB売上高

8,000  
(百万円)

6,000

4,000

2,000

0

25期

26期

27期

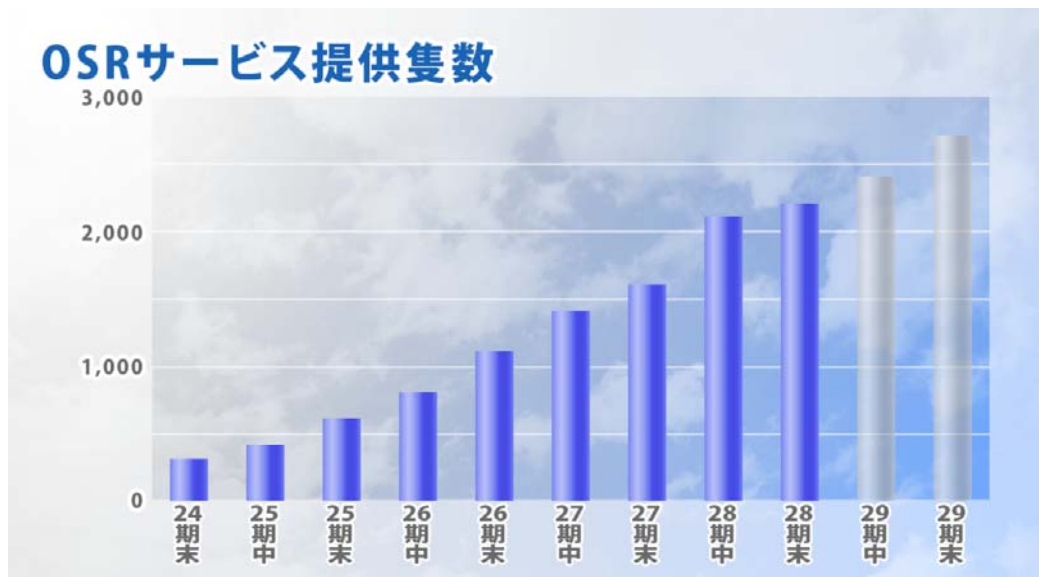
28期

航海・航空・道路・鉄道気象

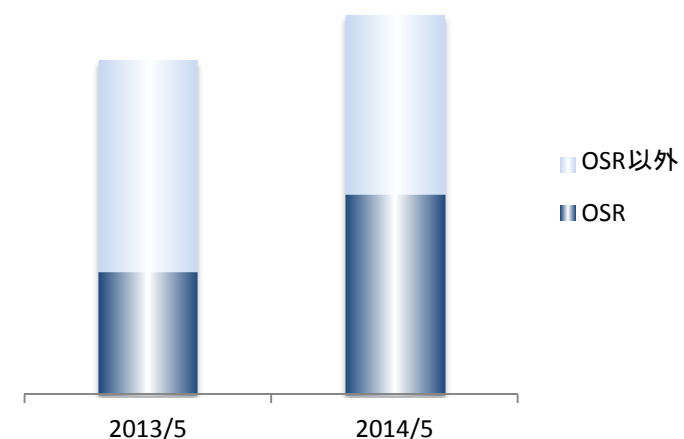
BtoB  
全体で  
10%増

交通気象  
11%増

従来型Ocean Routeingから、  
運航を最適化するOSR(Optimum Ship Routeing)への  
切り替えが進む。



OSRサービス提供隻数の変化



OSRの売上高変化

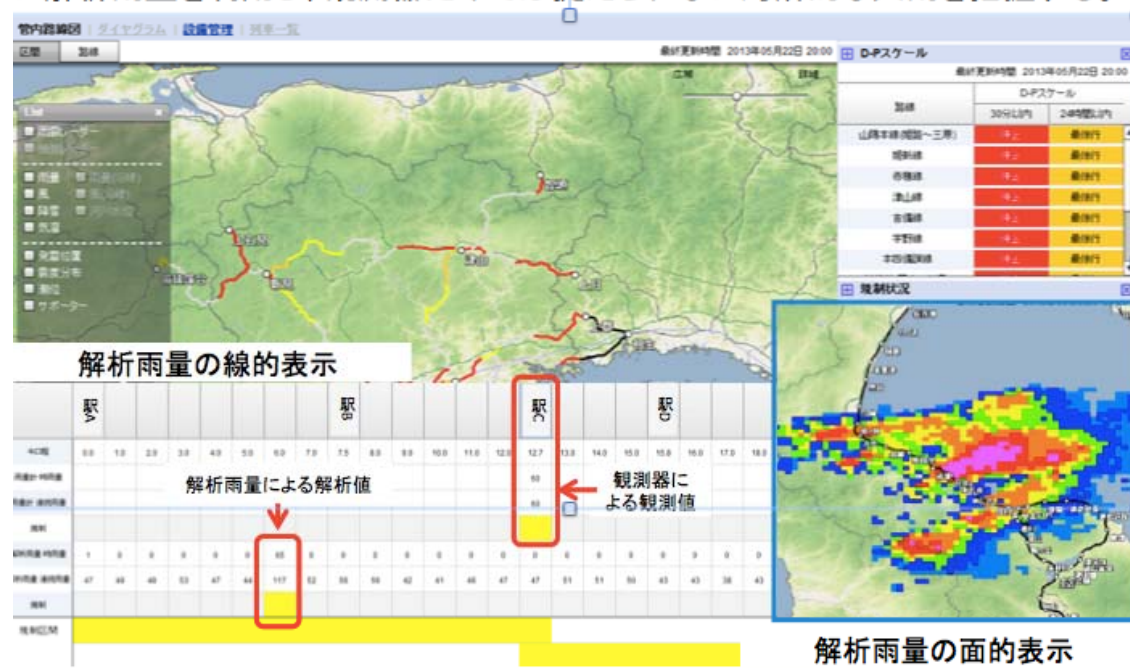
OSR展開が順調に進む。円安の影響もあり全体で11%増



**航空気象は、アジアの航空会社にサービス拡大。国内ではドクターヘリを中心に新サービス展開が進む。鉄道気象は、既存顧客において運行管理支援サービスの導入が進み売上増に貢献。**

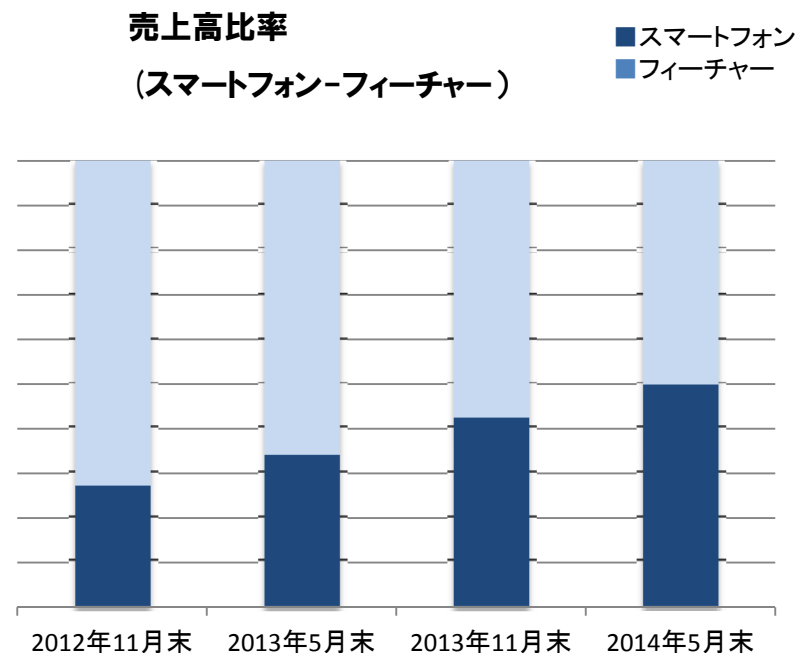
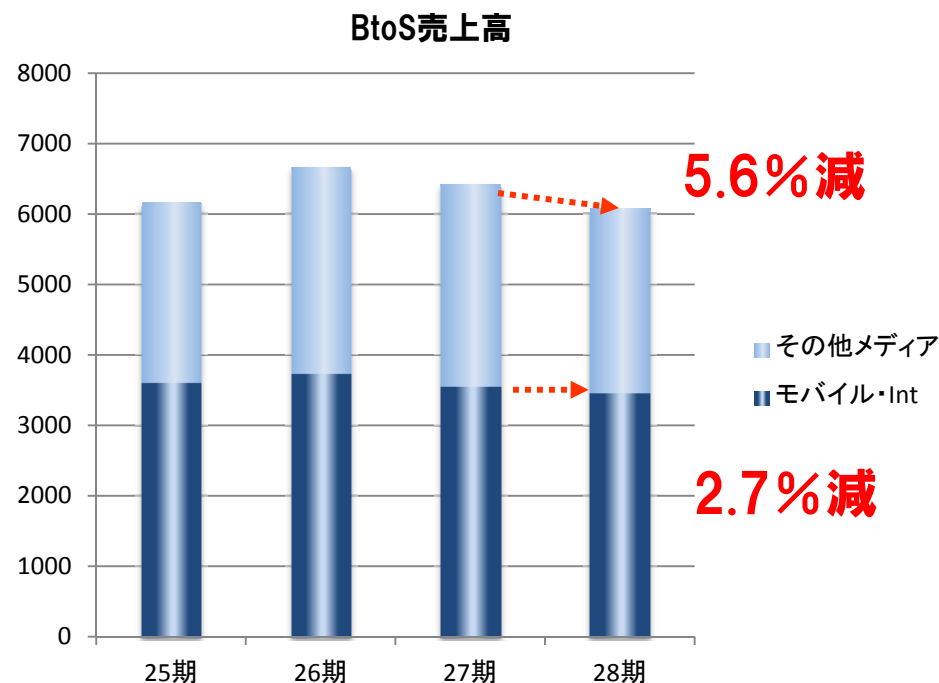


✓ 解析雨量を利用し、観測器だけでは捉えられない局所的な大雨を把握する。



スマートフォンへの移行に伴う影響により全体では減収となったが、有料会員増加の施策や大雪、台風時の有料会員の加入増加により減少は鈍化した。

モバイル・インターネットは2.7%減、B to S全体では5.6%減。

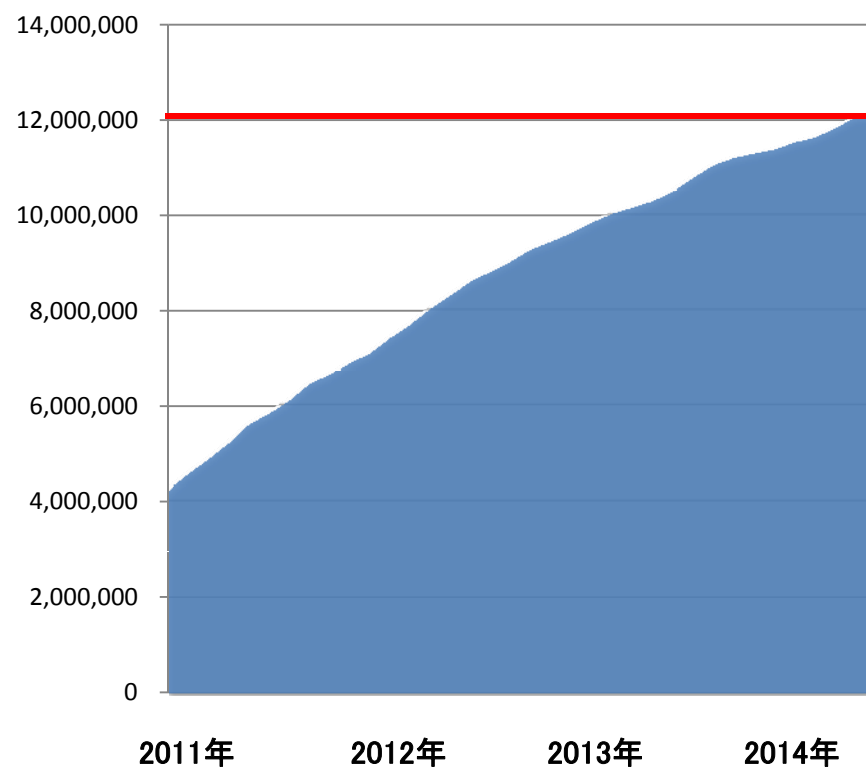


(百万円)

**重点事業**  
**(モバイル・インターネット)**

## ウェザーニュースタッチ ダウンロード数

1,200万DLを突破



## らくらくウェザーニュース sunnycombのリリース





**航海気象：引き続きOSRを展開**

**航空気象：ドクターヘリで実績を築いたFlight Watchサービスを  
GA(使用事業)市場へ展開**

**道路気象：日本で培ったノウハウを元にアジアへ**

**鉄道気象：通告サポートサービスを国内にて本格展開**

## 衛星不具合再打ち上げ

### ウエザーニューズ 北極海観測できず

気象情報会社のウエザーニューズは16日、自前で打ち上げた超小型衛星に不具合が起り、北極海の観測ができなくなったと発表した。海水を撮影して北極海を通る船舶の迎航を支援する予定だったが、カメラや衛星の姿勢を把握するセンサーが故障した。2015年夏に約3億5億円をかけて代わりの衛星を打ち上げる。

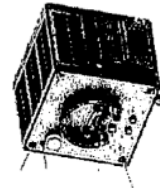
日本を欧州を北回りで行く北極海航路は、距離がスエズ運河経由の3分の2、喜望峯経路の2分の1で所要時間や燃料消費量を減らせる。近年、地球温暖化の影響で北極海の海水がとけて航行できる期間が長くなり、注目されている。

同社は海運会社に海水の情報を提供できるように、東大発ベンチャーのアクセルスペース（東京・千代田）と共同で超小型衛星を開発。13年にロシアの基地から衛星を打ち上げた。

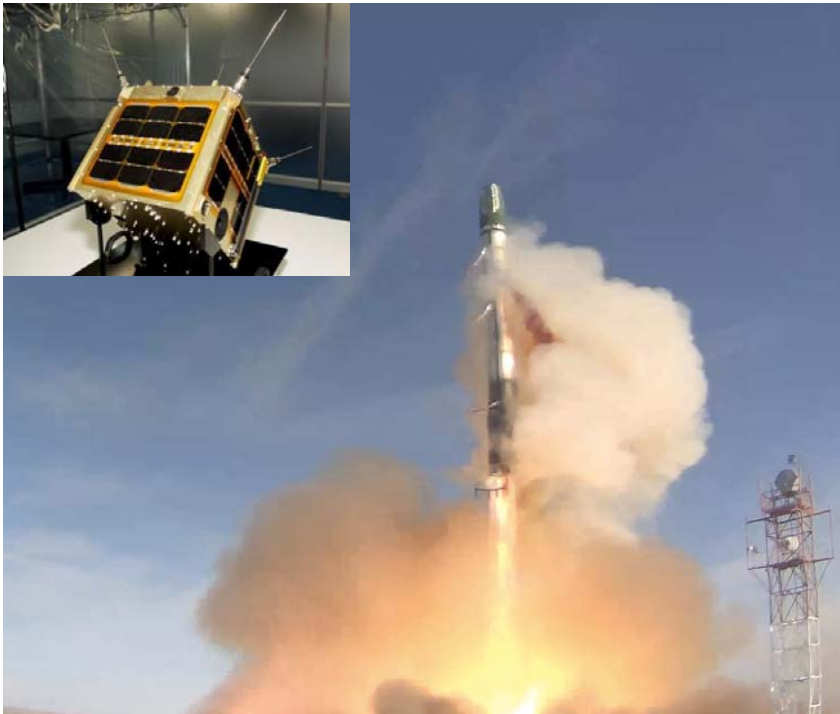
運用開始に向けて調整していたが、画像が地上に送れなくなった。放射線の影響で衛星に搭載したICが故障したのが原因とみられる。

再打ち上げる衛星は放射線への耐性を高めた部品を採用。カメラの台数を従来の2台から6台に増やして、一部が故障しても撮影を続けられるようにする。

故障した衛星も磁気センサーは正常に作動しているため、航空機の通信や計器に悪影響を及ぼす磁場の観測に役立てる。



ウエザーニューズの北極海観測衛星（イメージ図）



日本経済新聞 2014年5月17日朝刊

2013年11月21日にロシア・ヤースヌイ宇宙基地より超小型衛星 WNISAT-1の打ち上げに成功したが、機能に不具合が発生（4月）、当初のミッションを変更。リカバリー策として、WNISAT-1Rの2015年打ち上げを決定。

「海上気象」は、革新的インフラをベースにした  
価値創造サービスにより日本だけでなく、アジアにも展開



## ◆有料会員を増加する施策

- ゲリラ雷雨、台風、大雪など気象リスクが高い時のサポーター参加型サービスをさらに強化

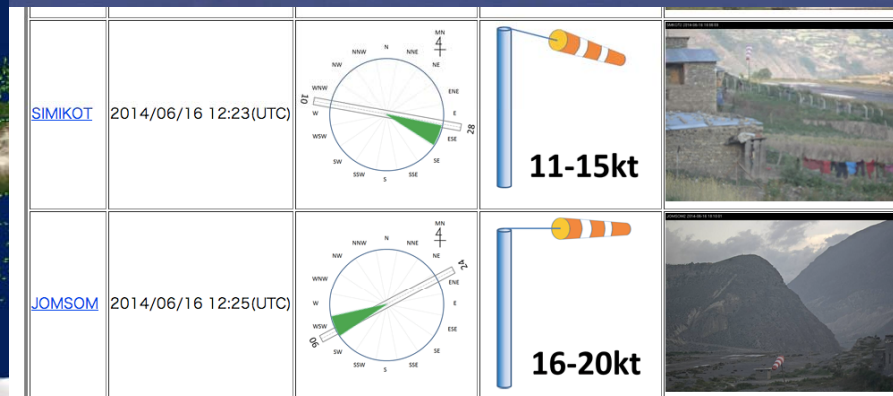
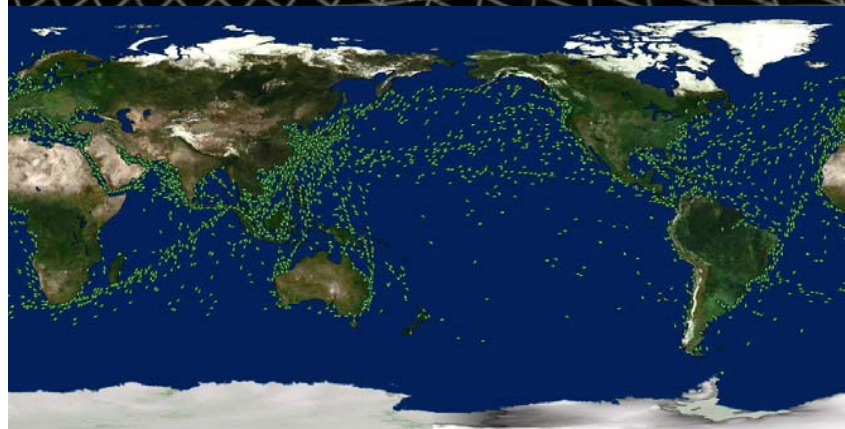
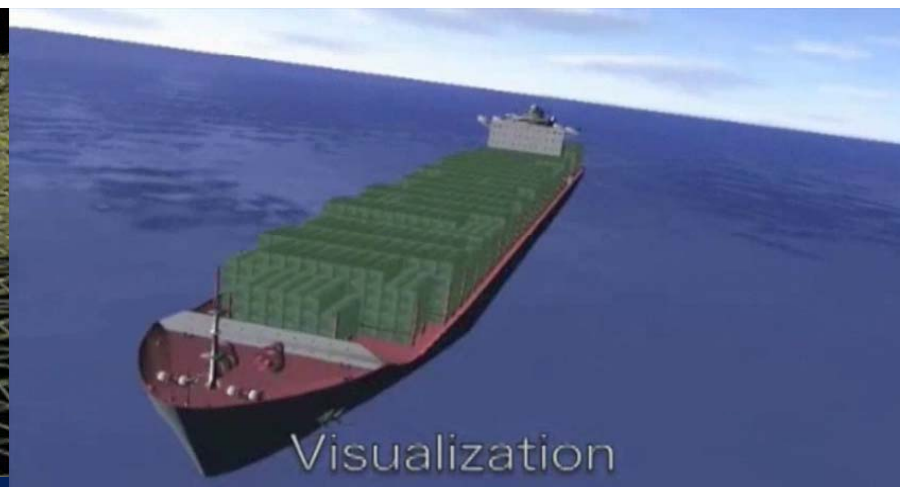
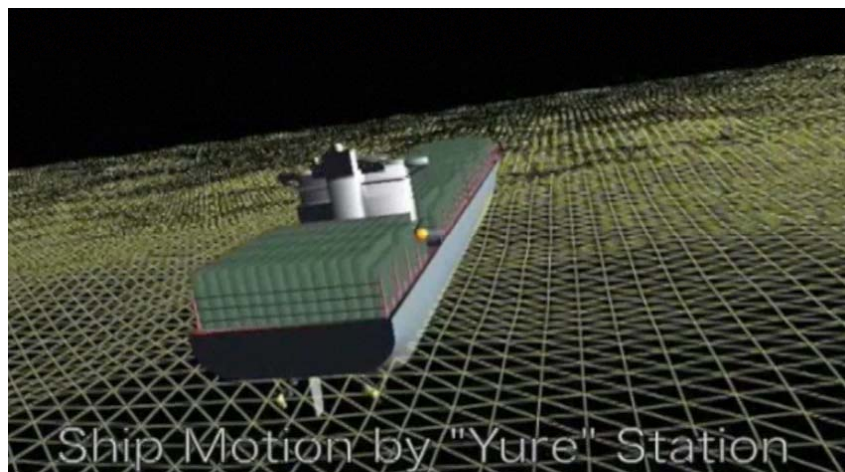
## ◆グローバルアプリ

- sunnycombの機能強化と認知度Upにより有料化への道筋



**ウェザーリポーターネットワークの  
グローバル展開**

## 今後のグローバル展開を更に加速させるため、 気象のVisualizationに特化したイノベーションセンター がアメリカで稼働開始





- 引き続き、航海気象(OSR)のグローバル展開
- 空、陸の交通気象と海上気象は、アジア展開を加速

(百万円)

	28期 (2013.6-2014.5)		29期 (2014.6-2015.5)		増減
	上半期	通期	上半期 (計画)	通期 (計画)	(通期比)
<b>売上全体</b> (B to B 法人向け市場) (B to S 個人向け市場)	6,160 (3,253) (2,907)	13,306 (7,228) (6,077)	6,500 (3,600) (2,900)	13,700 (7,800) (5,900)	394
<b>営業利益</b>	1,439	3,268	1,500	3,500	232
<b>経常利益</b>	1,443	3,293	1,500	3,500	207
<b>純利益</b>	894	1,873	1,000	2,100	227

# 29期見通し(TG型・SRS型)

29期は、TG型を中心に成長、一方でSRS型は、  
28期比で3億円程減少する見込み

(百万円)

	第28期 (13.06~14.05)	第29期 (14.06~15.05)	増減
TG (トールゲート型)	12,368	13,050	682
SRS (Stage Requirement Settings) 型	937	650	▲287
合計	13,306	13,700	394

